

(報告)「情報通信人材育成の連鎖構築について」

1 現状及び問題点

多くの産業にとって必要不可欠な情報通信技術 (ICT) の基盤を担う通信・電子システム分野は、今後 IoT (モノのインターネット) の進展を支える技術としても益々重要性が高まっているにも拘らず、一部で既に技術が成熟した分野と捉えられており、優秀な若者を呼び込むことが難しくなっている現状がある。

さらに、今後基盤分野として優れた成果を出し続けていくためには、異分野融合に挑戦したり、新しい領域を切り拓き、イノベーションを創出できるような“尖った人材”が求められているが、わが国においてはこのような人材を育成するための適切なシステムが構築できていないことが問題である。

2 報告の内容

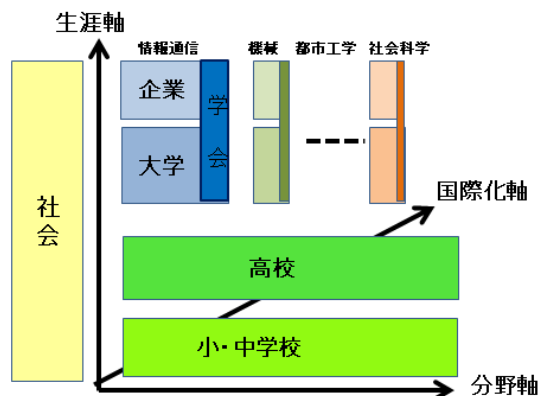
以上の問題意識に基づき、前期から今期 (第 23 期) にかけて、対処方針について議論を行った結果、主に以下の 3 側面について報告としてまとめた。

(1) 情報通信技術 (ICT) での求められる人材について

まず、“尖った人材”に代表される ICT を牽引する人材が持つべき要素の議論を行い、結論として、ICT の基礎学力に加え、①イノベーション力、②幅広い視野、③国際感覚を持つことが特に重要であるとした。

(2) 人材育成の連鎖構築について

上記のような要素を身に着けた人材の育成について俯瞰的な観点から議論を行い、その結果、人材育成の連鎖構造を作る事が重要だという結論になった。そこで、情報通信分野の広がりをもとに、3つの軸、①生涯軸、②分野軸、および③国際化軸を設定し、各軸に着目した議論を深めた。



更に、主なプレイヤーとして、大学、大学以前の教育機関、企業、学会、および及び一般社会を設定し、プレイヤー間の連携に着目して、それぞれのプレイヤーの立場から眺めた各軸に沿った施策等の連鎖について議論を進めた。

特に人材や技術・意見の還流構造にも着目した議論を取り入れている。主な提言は以下の通りである。

- ① 生涯軸については、人材の流れが一方通行であるため人材の還流構造をつくること、一般社会や大学以前の教育に対する積極的な働きかけを行うこと、大学は学生の潜在能力を引き出す教育を進める事、学会はもっと産業界の人間が参加できる場を増やす事、産業界はインターンやサバティカル受け入れ制度を充実すると共に大学や学会等との双方向人材交流の機会を増やす事などが重要である。
- ② 分野軸については、ICT が多くの分野の基盤となっていることから、意識して取り組みを強化すべきである。異分野の人と協調する機会を意識的に増やすために、対話能力を向上させる事、まずビジョンを作り取り組みを始めるやり方、社会に興味を持ちその要望に応じてシステムを組み上げるデザイン指向にみられるプログラムを強化することが重要である。
- ③ 国際化軸については、やはり国際経験を増やす事が重要である。海外留学、留学生との交流強化、海外の人材を積極的に活用することなどが効果がある。また、プレゼンテーション・交渉能力を強化することも重要であり、国際学会や国際標準化の場を活用するのも有効である。

(3) 大学における情報通信系学科の意義と今後の方向

情報通信は基盤技術として広がりを見せており、他の学科と組み合わせた新領域の学科（〇〇情報学科）も増加している。このような流れの中で、ICT そのものを専攻とする学科の意義と今後の方向性は何かについて議論を行った。主な意見として、

- ① ICT や産業の変化はめまぐるしく先の読めない世界になっているが、このような時代に必要とされ、イノベーション創出が期待できるのは、色々な分野を支える基盤技術である ICT に関するしっかりとした基礎知識を持っている人間である。
- ② ただ、ICT 自体の明るい未来を示さないと優秀な人材が入ってこないため、この側面についても努力する必要がある。また、近年の大学で少なくなっている物作りの経験を持たせることの重要性も指摘された。